

世界
ジオ
パーク

登別・洞爺湖

昭和新山



登別・洞爺湖

昭和新山
しょうわしんざん

のほりべつ どうやこ

目次

美しい四季の装い

登別・洞爺湖の四季 2
◆火山と共に生きる知恵 岡田 弘 2

火山と湖と温泉

支笏洞爺国立公園 登別・洞爺湖(昭和新山)地域のプロフィール 10
◆登別・洞爺湖へのアクセス 11

支笏洞爺国立公園

登別・洞爺湖地域索引図 12

北海道を代表する温泉地

登別温泉に泊まる 14
温泉のデパート・登別/温泉街のシンボル・鬼/温泉街のメインストリート・極楽通り/間欠泉のある泉源公園/クマ牧場とユウカラの里/登別温泉の三大史蹟/登別温泉のイベント
◆アイヌモシリの時代から 15

火山地形が織りなす景観

地獄谷・大湯沼・登別原始林自然探勝路を歩く 16
◆登別パークサービスセンター 17
◆文(ふみ)と祈りの道(舟見山山稜コース) 19

見どころあれこれ

登別周辺ガイド 20
日和山原生野草園/倶多楽湖/カルルス温泉/カルルス温泉サンライバスキー場/来馬岳/橋湖/オロフレ山

火山がもたらした偉大なる景観

クッタラ火山を知る 22

明るい湖に点在するレジャースポット

洞爺湖をめぐる 24
洞爺湖中島/洞爺湖遊覧船/湖畔に湧く温泉/西山火口散策路と金比羅火口散策路/湖畔に点在する公園/岩屋観音と義経岩/緑豊かなキャンプ場/さまざまなイベント
◆洞爺湖ビジターセンター 24
◆洞爺財田自然体験ハウス 26
◆洞爺湖ぐるっと彫刻公園 27

表畑が隆起してできた山

昭和新山を訪ねる 28
有珠山ロープウェイ/緑の園地と野外博物館/三松正夫記念館/昭和新山熊牧場/昭和新山国際雪合戦
◆昭和新山パークサービスセンター 28
◆有珠山平成12年の噴火 29

火山誕生のすべてを記録した男

三松正夫と昭和新山 30

素晴らしい眺望が広がる

有珠外輪山を歩く 32
雄大な眺望の洞爺湖展望台/巨岩が間近に迫る火口原展望台/火山を体感・有珠外輪山遊歩道/たくましく生きる有珠山の植物/特殊な環境下で形成した生態系
◆洞爺湖有珠山ジオパーク 33

蝦夷富士と呼ばれる秀峰

羊蹄山を眺める 34
羊蹄山の生い立ち/高山植物の宝庫/4つの登山道/山麓のポイントガイド
◆植物の垂直分布 34
◆松浦武四郎の羊蹄山雪中登山 35

登別・洞爺湖の可憐な植物たち

花図鑑 36

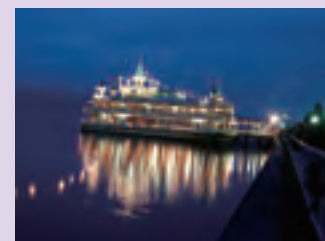
登別・洞爺湖でバードウォッチング

野鳥図鑑 42

火山とともに歩む観光地

登別・洞爺湖の歴史 44
登別のあけぼの/発展の歩み

主要機関・交通機関・観光案内問い合わせ一覧 48



地獄谷・大湯沼・登別原始林自然探勝路

(往復約3km/約1時間20分)

登別に来たら、地獄谷を見ない人はいない。しかし、地獄谷展望台で記念写真を撮って帰るだけではもったいない。地獄谷から大湯沼周辺には、豊かな森の中を縫うように散策路がいくつも設定されている。短いコースもあるのので、ぜひとも歩いてみよう。

ふつと熱湯がたぎり、硫黄を噴き上げる地獄谷、灰黒色の熱湯をたたえた大湯沼や奥の湯、大正地獄、そして人々をいやす大湯沼川天然足湯など、火山地形独特の見どころが満載だ。

周辺は硫黄や酸性土壌の影響で生育する植物の種類も限られている。特殊な植物社会を構成する様子が見られる反面、隣接してミス



が、横切って探勝路に入る。ほどなく行くくと日和大湯沼展望台に着く。ここからは、東に摺鉢山火口、正面には大湯沼と日和大湯沼が見える。

日和大湯沼は標高三百七十七メートルの溶岩円頂丘で、頂部の裂け目からまるでジェット機のような音がともに白煙を噴出している活火山だ。黄白色の山肌をむき出し、山麓の大湯沼と相まって怪奇な姿を見せている。アイヌ語で、フムブルケ・ヌプリ(もくもくと煙を噴いている・山)と云う。登別海岸の漁民がこの噴煙を見て天候を占ったことから「日和大湯沼」の名がついた。



ナラやホオノキの巨木がうっそうと生い茂る登別原始林、さらにガンコウランやシラタマノキなどの高山植物も広がっている。四季折々の自然現象を間近に観察できるのが、この探勝路の魅力だ。

1 登別地獄谷展望台



登別パークサービスセンターの正面のゆるやかな坂を行くと、目前に現れるのが登別地獄谷だ。たいていの人はここでまず看板をバックに記念写真を撮る。ここは登別観光の一大スポットで春夏秋冬、多くの人々が賑わっている。

地獄谷は、昔から賽の河原にたとえられていて、岩肌は赤茶け、黄灰色の岩丘の裂け目からはもうもつと火山ガスが噴出している。

背面は赤い岩肌の絶壁で、百数十メートルの奇岩が目前にそそり立ち、圧倒的な迫力で迫ってくる。荒涼とした風景とは裏腹に温泉源は多彩で、豊富な湯量を誇り、その湯は温泉街の旅館やホテルに供給されている。地獄谷は多くの人々に恵みをもたらす場所でもあるのだ。

2 赤いススキ

展望台での眺望を楽しんだら、薬師如来を右に見て、谷の奥へと続く道を行こう。探勝路沿いの低地には、赤いススキが見られる。葉はふつものものと変わらないが、茎の色が特に赤っぽいのが特徴。温泉周辺の植生は、噴出する硫黄の化学的成分や酸性土壌のため、生育する種類も限定されている。温泉噴気孔に近いところからススキ、オオイトドリ、インソツジ、ガンコウラン、ナナカマドなどの植生構造を示す。赤いススキは、火山性土壌の影響だろうか。



3 鉄泉池



探勝路を大きく左に迂回した丘からは、地獄谷の全景と鉄泉池に通じる木道が一望できる。木道を歩いてその先の鉄泉池に寄ってみよう。

木道に入ると、赤茶けた岩肌や足元の黄灰色の噴気口からフクフクと熱泥と特有の噴気が立ちこめ、まるで別世界に迷い込んだような錯覚に陥る。木道の下に流れる通称「三途の川」を渡ると、鉄泉池がある。四方を木の柵でかまれた鉄泉池は、鉄分を含んだ八十℃の間欠泉で、二、三分間隔で噴き上げるのを見ることが出来る。

5 日和大湯沼展望台



ナナカマド広場を抜け、登り坂を行くと道はいったん車道に出る

6 インソツジの群落



ここから奥の湯に下る道沿いには、インソツジが群落で見られる。インソツジは、木の高さが三十四五センチメートルほどで、火山灰斜面に生えている。花期は、六月上旬から七月上旬で北国に初夏を思わせる頃、白い花が枝先に多数つき、手まりのように咲いて美しい。枝や葉には特有の香りがあり、昔、アイヌたちは乾燥した葉を湯に浮かべて、お茶の代わりに用いたという。

7 奥の湯



登別パークサービスセンター

●開館時間：午前8時～午後5時 年中無休 入館無料
 〒059-0551 登別市登別温泉無番地 電話：0143-84-3141
<http://www.bes.or.jp/nobori/>

目でわかるように工夫されている。また、隣の「鬼っこトイレ」も好評だ。

観光ボランティアガイド

地獄谷を一緒に歩いて無料で案内してくれる、観光客にとってうれしいサービスが「登別市観光ボランティアガイド」だ。お揃いの白い帽子と緑に赤い文字で「無料案内」と染め抜いたはっぴに身を包み、4人体制で多少の雨や風にも負けない精力的な活動をしている。

●活動期間 5月1日～10月31日
 ●時 間 午前10時～午後3時

地獄谷入り口にあるのが登別パークサービスセンターだ。地獄谷周辺の自然情報などが揃っているので、散策する前にぜひとも立ち寄りてみよう。

外観は、昭和初期に実在した登別温泉バス停をイメージしている。地元の建築家の設計によるもので、内装、外装とも道産材をふんだんに使用している。また、地獄谷からの硫黄による腐食にも耐えられるように、金具類はすべてステンレス製を採用した。

1階は案内所と休憩室で、誰でも自由に利用できる。タッチパネル式の大型モニターがあり、地獄谷周辺の見どころを

壁面に飾られた、地獄谷周辺の自然情報パネル「うつろい唇」は一見の価値がある。春夏秋冬ごとの動植物の見頃や見どころが詳しく掲載され、散策する際の参考になるだろう。

さらに、地獄谷周辺に設定された6つの散策路を紹介したコーナーもあり、コースごとに所要時間や距離、消費カロリーなどがひと